

緑化だより

No.209 令和6年10月号



クチベニタケ

- 季節の花 (いはみづら (スベリヒユ))
- 水生昆虫の話 (オニヤンマ)
- 小さな世界こけ (タチヒダゴケ(コダマゴケ))
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 研学の本

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

いはみづら(スベリヒユ)

「入間路(いりまち)の 大屋(おおや)が原の いはみ蔓(つら)

引かばぬるぬる 我(わ)にな絶えそね」

作者不詳 万葉集 巻14-3378

これを訳しますと

(入間路の 大屋が原に生えている いわいつらを 引けばずるとゆるんで抜けるように
あなたもそのままなめらかに寄り添って 私との仲が切れてしまわないようにしてください)

入間路(いりまち)の大家が原は 今の埼玉県入間郡の地域だと言われています。

いはみづらには諸説ありますが、スベリヒユを鳥取県の方言で「いはいつら」と言われることから定説となりました。

スベリヒユはスベリヒユ科スベリヒユ属の一年草で、熱帯から温帯にかけて分布しています。

生命力の強い草で、夏から秋にかけて、荒れた畑や庭、道ばたなどの日当たりの良い所に生え、茎は地を這うように放射状に広がり、よく晴れた日の午前9時ぐらいから黄色い小さな5弁の花が咲きはじめ、数時間で閉じてしまい、正午には見る事ができません。

昔は若芽や葉を摘み食料や薬用としていました。今では雑草ですが、昔の人々は救荒植物として採集したものを乾燥しておき、おひたしにして飢饉の時の食料にしたり、かゆみや痛み止めとして虫に刺されたとき葉をもんで汁をつけたりしてきました。

また、別名「すべらん草」とも言われ、山形県庄内地域の中学校では願をかけて、受験期になると給食にスベリヒユ料理が出るそうです。

夏の暑い日、道ばたのスベリヒユに昔の生活を偲んでみてはいかがでしょうか？

マツバボタンとスベリヒユの交雑種はハナスベリヒユ(ポーチュラカ)という名前前で、赤色や黄色などの花が夏の花壇を彩ってくれます。(上村)



スベリヒユ



ハナスベリヒユ(ポーチュラカ)

水生生物の話

オニヤンマ

緑化センターのレストハウスあたりを歩いていると、とても大きなトンボが飛ぶ姿をよく見かけます。そう！日本最大のトンボ「オニヤンマ」です。

オニヤンマが飛んでいるということは、その幼虫であるヤゴが近くの水辺に生息しているということ。緑化センターの池のほとりでヤゴの抜け殻を観察することができました。

オニヤンマの幼虫は、平地から山地の河川で周囲に樹林のある場所や小川、湿地、ため池などにおいて、砂泥の中に浅く潜って獲物を待ち伏せしています。成虫になるまでには5年かかると言われていましたが、調べてみると2~4年など諸説あるようです。

ヤゴは数年間を川の中で過ごし、終齢幼虫で体長が42～51mmにもなります。ちなみに写真の個体は、同じ時に同じ場所で採集したのですが、ご覧のとおり明らかにサイズが違います。小さいのが1cm足らず、大きいのが3.5cmの亜終齢の個体で、まだ更に脱皮を繰り返して大きくなります。

体色は黄色がかった褐色から褐色。頭部は逆台形で、翅芽はハの字に開きます。多くのほかのトンボのヤゴに比べると、腹部にくびれがなく寸胴型。腹部の背側には2本の黒斑列があり、第8-9節には目立たない側棘があります。全身が短い毛で覆われており、水底に潜っているのでその短い毛に泥砂が付着し、獲物を待ち伏せするのに丁度よいカムフラージュになっています。小さいうちは頭部から前足にかけてのフォルムがシオカラトンボのヤゴと似ているので、つい見間違えてしまうことも。でも、よくみると腹部から尾にかけて細く長いので見分けがつかず。

ぜひ、オニヤンマのヤゴを見つけたときはじっくり観察してみてください。大きいサイズになると、ヤゴの姿でも雌雄の判別ができます。観察に興味のある方は、文一総合出版のヤゴハンドブックが携帯しやすいのでお勧めです。(西村)



オニヤンマのヤゴ

小さな世界 こけ

タチヒダゴケ(コダマゴケ)

タチヒダゴケはミノゴケやカラフトキンモウゴケと同じタチヒダゴケ科のセン類で、雌雄同株です。

公園の樹木の樹幹や切株、時にはコンクリートなどにこんもりとした小さなかたまりをつけています。場所によってはコゴメゴケやヒナノハイゴケなどと混生していることもありますが、タチヒダゴケは特徴のある孢子のうなので区別が付きやすいでしょう。

12月～2月頃からつける孢子体は、蒴柄は0.5mm前後と短く、孢子のうは葉よりも大きく目立ちます。早春の孢子のうは縦じわの帽子をかぶっていますが、春、帽子が脱げると孢子のうの先が8裂した蒴歯がみえます。中に見える粒々は孢子です。

初夏、孢子が放出された後にはラッパの様な孢子のうが残されています。

葉の長さは、2mm前後、幅約0.5mmの披針形～楕円状披針形で縁は全縁でわずかに反り返ります。

中肋は葉先近くに達しています。乾いても縮れることはなく、茎にくっつきます。(山根)



樹幹に生育しているタチヒダゴケ



冬～早春の若い孢子のう



帽子が取れた孢子のう



ラッパの様な孢子のう

研修会のご案内

- 10月 5日(土) 『10月の自然探勝』
散策路を歩きながら植物を観察します
※自由参加、無料
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：森林インストラクター
野田 圭一
- 10月 6日(日) 『秋のきのこ教室』
園内で自由にきのこを採集し、午後から学習室に持ち寄り、
鑑定します。
※自由参加、無料、採集用カゴ持参
10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章
- 10月 13日(日) 『どんぐり教室』
どんぐりでの遊び方などを学びます
※要予約(先着15名)、無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本シェアリングネイチャー協会
トレーナー 住吉 和子
- 10月 18日(金) 『三本木山 自然探勝』
三本木山頂をめざしながら植物観察をします
※自由参加、無料
10:00～12:00 第5駐車場 集合
講師：元NHK広島文化センター
アシスタント 上村 恭子
- 10月 20日(日) 『こども写生大会』
園内で自由に絵を描きます
※自由参加(審査対象は小学生以下)無料、描画道具持参(画用紙以外)
雨天中止
10:00～12:00 学習室 集合
講師：元中国新聞図画教室指導審査員
横山 直江
- 10月 27日(日) 『つづらふじでカゴ作り』
作り方の基本を学び、実践します
※要予約(先着15組)、材料費1,500円
10:00～14:00 学習室 集合
講師：つづらふじ造形作家
飛河 道雄
- 11月 1日(金) 『松の手入れ(秋)』
秋の手入れについて学び、屋外で実習します
※要予約(先着15名)、無料、剪定鋏、手のこ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：NPO法人樹木医ひろしま
工藤 徹
- 11月 3日(日・祝) 『自由工作塾』
自然の素材で自由に工作
※自由参加(随時受付)、材料費1作品100円
10:00～15:00 レストハウス前 集合
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧
- 11月 3日(日・祝) 『ネイチャーゲーム』
さまざまな自然の遊びを体験しましょう
※自由参加(随時受付)、無料
10:00～15:00 レストハウス前 集合
講師：広島市シェアリングネイチャーの会

♪☆ お知らせ・ご案内 ☆♪

・ひろしま遊学の森

スタンプラリー2024秋 10月 5日(土) ～11月 17日(日)
県緑化センターと市森林公園でスタンプを集めてプレゼントゲット!

・もみじ祭り2024 10月 19日(土) ～11月 10日(日)
期間中紅葉クイズラリーでプレゼントゲット!

・もみじ祭りお楽しみイベント 11月3日(日・祝) 10:00～15:00
場所：レストハウス前
紅葉クイズラリー、ノルディックウォーク、草花販売、キッチンカー



《工事規制について》

- ・下水処理場工事のため、12月まで園内の一部で通行規制がかかる場合があります。
- ・レストハウス耐震改修その他工事のため、9月中旬～10月頃まで営業日の変更があります。詳細はHPなどでご確認ください。